

2026年 札幌雪まつりと 北国の冬を巡る旅

日程：2026年2月4日～6日（2泊3日）

【1日目】新幹線で北の大地へ、函館の夜を愉しむ

今回の北海道旅行は3度目。今回選んだのは、陸路・新幹線で函館を目指す旅。かつて観た映画『海峡』に影響され、一度は青函トンネルを通ってみたかったのです。

北海道新幹線はちょうど開業10周年。記念の缶バッジを手に、いよいよトンネルへ。電光掲示板の表示がなければ、地下100mを走っているとは気づかないほど静かでスムーズな通過でした。この「当たり前」の景色こそが、技術の結晶なのだと深く感じ入りました。



新幹線本州最北端の駅



赤レンガ倉庫

函館到着後は、自由時間を利用して金森赤レンガ倉庫へ。

夕暮れ時、溶け残った雪山とイルミネーションに照らされたレンガの壁。そして濃い紫色の残照が広がる空……。北国の夜が醸し出す美しさは格別です。夕食は地元の名店「麺厨房あじさい」へ。私はバターの甘みが際立つ味噌ラーメン、妻は透き通ったスープの塩ラーメンに舌鼓を打ちました。



函館塩ラーメン

【2日目】洞爺湖・小樽、そして憧れの「さっぽろ雪まつり」へ

車窓からは、別名「蝦夷富士」と呼ばれる羊蹄山が裾野まで白く輝く姿が見えました。昨日新幹線から見た富士山よりも、いっそう白く、凜としています。

小樽では、溶けかけの雪が固まった悪戦苦闘の足元でしたが、妻の希望で運河へ。大勢の観光客で賑わう中、ようやく辿り着いた橋の上からの景色は、冬の小樽らしい情緒に溢れていました。



運河の船着場で

そして、ついにメインイベントのさっぽろ雪まつり。

大通公園に現れた巨大な雪のオブジェ。特に自衛隊が制作した「会津若松城」は圧巻で、プロジェクションマッピングと大迫力の音響に、言葉を失うほどの感動を覚えました。

しかし、夜の会場はまさに迷宮。国際色豊かな喧騒と、ブラックアイスバーンのボコボコとした路面。簡易アイゼンをしていても転倒しそうになるほどでした。ホテルへの帰り道に迷い、飛び込んだホテルのフロントで「お隣ですよ」と優しく教えられたのは、今では照れくさくも良い思い出です。



石像一会津若松城



【3日目】 極寒の支笏湖から帰路へ

最終日は、支笏湖の**「氷濤（ひょうとう）まつり」**を見学。

時折差し込む陽光に、支笏湖ブルーの氷が青空に映えて美しかったです。しかし、吹き上がる強風は目を開けられないほどの冷たさ。寒さのあまりスマホを誤作動し、景色を撮ったつもりが自分の顔が写っていたのには苦笑いするしかありませんでした。

帰路のJR函館本線では、大雪による遅れや乗り換えのハプニングもありました。吹きさらしのホームで凍えながら待った時間、慌ただしい乗車、そして雪原を駆けるディーゼル特急の響き……。添乗員さんの誘導には少し戸惑う場面もありましたが、それらすべてを含めて、今の私にとって「旅」の醍醐味だったと感じています。



氷谷

行程

2月4日水曜日ー函館へ

6:45自宅発～7:12旭前発ー大曾根ー7:50名古屋駅着218号は～8:29名古屋駅発

ー東海道新幹線・のぞみ

ー東京駅着10:06～東京駅発10:45ー東北北海道新幹線・はやぶさ

17号ー15:01函館北斗駅着～函館北斗駅発ー在来線ー15:26函館駅着ータクシーー15:50p函館国際ホテル着

2月5日木曜日ー札幌へ

8:15ホテル発ーウインズバスー10:30洞爺湖～わかさいも本舗:昼食～12:45出発ー

14:30小樽～街並み～運河～15:30小樽発ーバスー16:50ニューオータニイン着～17:15～札幌雪祭り散策～19:30

2月6日金曜日ー帰路

8:00ホテル発ーウインズバスー9:45支笏湖～氷氷濤祭り～10:30発ーバスー11:50jr登別駅着～

12:10登別発ー10分遅れで発ー函館本線ー4:45新函館北斗駅着～14:52新函館北斗駅発ー4分遅れ・北海道・東北新幹線ー19:04東京駅着～19:48東京駅発ー東海道新幹線ー21:25名古屋駅着～21:36名古屋駅発ーjr中央線ー大曾根駅ー名鉄瀬戸線ー22:18旭前駅着～22:30自宅着
